

**平成23年度
全国学力・学習状況調査問題を活用した
北海道における学力等調査の結果分析**

平成23年度 全国学力・学習状況調査問題を活用した 北海道における学力等調査結果

～石狩市における調査結果の概要～

石狩市教育委員会

この調査結果は、北海道が公表した、「平成23年度 全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査～調査結果のポイントについて～」で示された調査結果に基づき、本市の小中学校の状況についての概要を掲載したものです。

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全道的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年

3. 調査の方式

平成19年度～21年度は、全国すべての小中学校を対象として、また、平成22年度は、抽出（全国で約30%）及び希望利用調査として実施いたしました。

本年度は「東日本大震災」の影響で全国一斉での実施は見送られ、各都道府県独自に対応することになりました。北海道では、札幌市を除く全ての市町村の希望参加により「平成23年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査」が実施されたところです。したがって、以下における「全道」のデータには、札幌市を含んでいません。

※問題の詳細については、「国立教育政策研究所」のホームページを参照してください。
「国立教育政策研究所」(<http://www.nier.go.jp/11chousa/11chousa.htm>)

4. 調査実施日

平成23年 9月27日（火）・28日（水）・29日（木）

5. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校 13校（市内全校） 500名

中学校 8校（ 々 ） 504名

平成23年度 全国学力・学習状況調査問題を活用した
北海道における学力等調査の結果分析

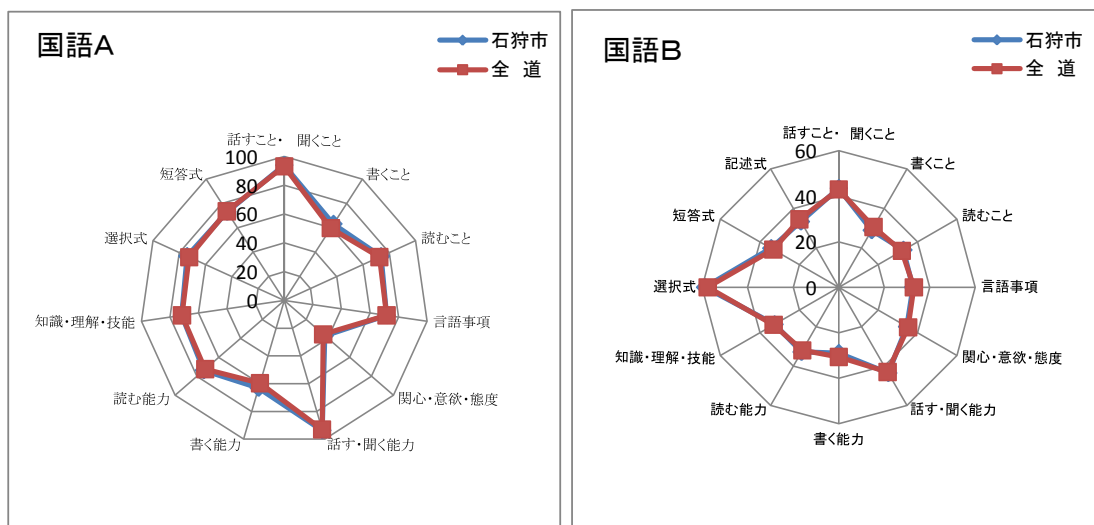
【小学校国語】

□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 道	11.7/16問	73.1	3.6/10問	36.2

全道平均正答率との差	ほぼ同様(上位)	同 様	ほぼ同様(下位)	やや低い	ほぼ同様(上位)	同 様	ほぼ同様(下位)	やや低い
	+3~+1	+1~-1	-1~-3	-3~-5	+3~+1	+1~-1	-1~-3	-3~-5
石 狩 市		○				○		

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 文や段落の接続関係を整えて書くことがやや上回る
- 一部の漢字の書きなどの言語事項に課題

国語 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識や技能が身に付いているかどうかをみる問題です。短答・選択の解答形式で構成されています。領域別では、「話すこと・聞くこと」では相手や目的に応じて自分の考えを話す。「書くこと」では表現の効果を考えたり敬体と常体の違いに注意して書く。「読むこと」では新聞記事を効果的に読んだり詩の情景を想像しながら読む。「言語事項」では漢字の読み書き、国語辞典の利用・主語と述語との照応などに関する内容になっています。問題数は16問です。

- ・「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域については、全道とほぼ同様です。
- ・「書くこと」では、全道をやや上回っています。特に、文と文や段落の役割を考えながら接続関係を整えて書くことでは全道を上回っています。

国語A	設問	石狩市正答率	全道正答率
(例) 4 接続語句の選択	文中の□に、当てはまる接続語句を選択する	72.2%	66.9%

- ・「言語事項」では、全道と同様ですが、既習の漢字を正しく書くことに一部課題があります。

国語A	設問	石狩市正答率	全道正答率
(例) 1二 漢字を書く	1 「ウメの木」 (梅)	88.0%	89.7%
	2 「ヒジョウ」 (非常)	46.0%	53.3%

〈指導の改善にあたって〉

- ・漢字の書きでは、繰り返して学習したり、習得した漢字を短文づくりや日記などの文や文章に適切に活用させるなどの指導を通し、基礎的な学力の向上に努める必要があります。
- ・説明文や物語などの読書活動の充実や授業における新聞記事の有効活用などを通し、文章を読み取る力の向上に努める必要があります。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題です。選択・短答・記述の解答形式で構成されています。領域別では、「話すこと・聞くこと」では目的や意図に応じて計画的に話し合う。「書くこと」では理由を明確にして自分の考えを書く。「読むこと」では伝記を読んで自分の考えを深める。「言語事項」では文と文の意味のつながりを考えて書くなどの内容になっています。問題数は10問です。

- ・「話すこと・聞くこと」をはじめ四領域すべてが、全道とほぼ同様です。
- ・「読むこと」の資料(文章)から適切な言葉や文を抜き出す問題では、全道に比べて正答率はほぼ同様で、無解答率は低くなっています。

国語B	設問	石狩市		全道	
		正答率	無解答率	正答率	無解答率
(例) 3一 言葉の抜き出し	ア 登場人物の心情を表している言葉を資料から抜き出す	58.4%	18.5%	55.7%	24.0%
3二 言葉の抜き出し	オカ 書き手の違いなどの言葉を資料から抜き出す	29.7%	45.8%	28.7%	52.8%

〈指導の改善にあたって〉

- ・ 目的や意図に応じて自分の考えを効果的に書くこと、登場人物の心情や場面に注意して読み優れた叙述を多面的に捉えるなど文を読み取る力がいっそう高まるよう、作文や読書などを通して指導に努める必要があります。
- ・ 自分の考えをもち目的に応じてメモをしたり、必要事項を整理して書くなど授業中におけるノート指導の充実を図るとともに、授業と家庭学習との学びの連続性がいっそう高まるよう指導に努める必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・ 「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答（好きです、どちらかといえば好きです）は、全道の54.7%に対して石狩市は51.7%で3.0%低くなっています。
- ・ 「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の90.0%に対して石狩市は89.2%で0.8%低くなっています。
- ・ 「国語の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の76.7%に対して石狩市は74.2%で2.5%低くなっています。
- ・ 「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の68.2%に対して石狩市は74.9%で6.7%高くなっています。
- ・ 国語の授業の質問に関して、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」、「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」の設問では、肯定的な回答は全道をやや下回っていますが、「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「文章を読むとき段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」の問いでは、肯定的な回答は全道とほぼ同程度になっています。
- ・ 解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」といった肯定的な回答は、A問題は全道と同様で、B問題は全道よりやや高くなっています。なお、A・Bとも無解答率は、石狩市は全道とほぼ同様の結果が出ています。

平成23年度 全国学力・学習状況調査問題を活用した
北海道における学力等調査の結果分析

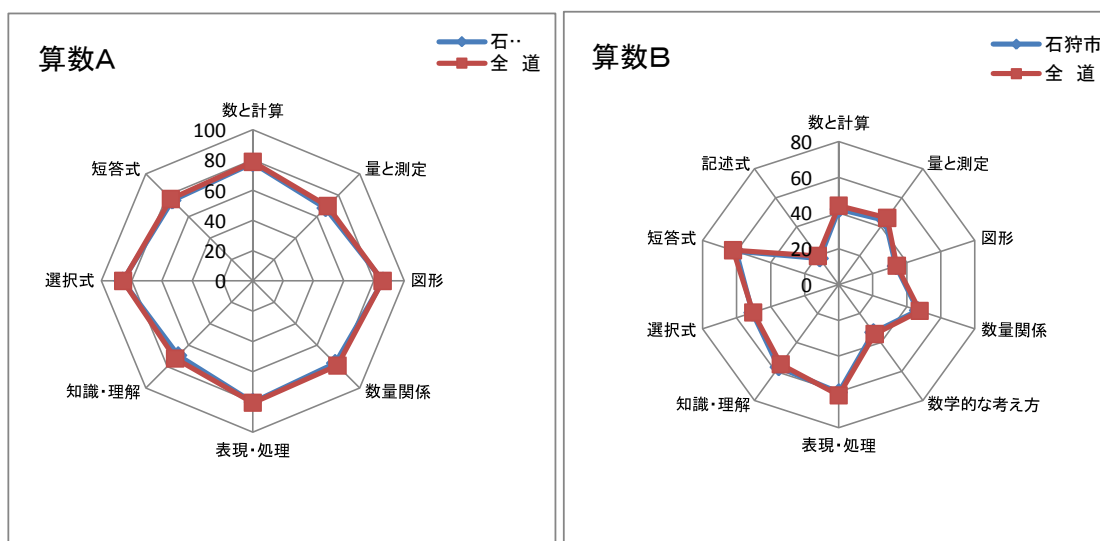
【小学校算数】

□ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全道	14.8/19問	78.0	5.5/13問	42.2

全道平均正答率との差	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い
	+3~+1	+1~-1	-1~-3	-3~-5	+3~+1	+1~-1	-1~-3	-3~-5
石狩市			○				○	

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 算数科の概要 □

- 整数の四則計算や計算順序のきまりを理解し計算することについてはほぼ定着
- 割合(百分率)の意味の理解および小数や分数を計算することに課題
- 公式を理解し、計算して体積を求めることに課題
- 記述を要する問題への解答に課題

算数 A (主として「知識」に関する問題)

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題です。選択・短答の解答形式で構成されています。領域別では、「数と計算」では整数や小数や分数の四則計算・小数部分を分数での表現・漢数字を算用数字で表現。「量と測定」では2つの時刻間を時間で表現・はかりの目盛りの読み・平行四辺形の面積や直方体の体積。「図形」では直方体やひし形の定義や性質の理解。「数量関係」では混合計算・割合(百分率)の意味・グラフの読み取りに関する内容になっています。問題数は19問です。

- ・「図形」については、全道とほぼ同様です。
- ・「数と計算」では、全道とほぼ同様ですが、「小数×整数」の計算や異分母分数の計算に課題があります。

算数A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	1 小数の乗 法	3 13.9×7を計算する	76.6%	80.2%
	1 異分母分 数の加法	7 1/4+2/5を計算する	63.8%	72.6%

- ・「量と測定」では、全道とほぼ同様ですが、直方体の体積の求め方に課題があります。

算数A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	5 直方体の 体積	2 縦7cm、横5cm、高さ2cmの直方体の体積を求める式と答えを書く	76.0%	79.2%

- ・「数量関係」では、全道とほぼ同様ですが、割合に関する問題の解き方に課題があります。

算数A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	9 百分率の 意味	100人のうち40%が女子のとき、女子の人数を求める式と答えを書く	24.2%	36.2%

〈指導の改善にあたって〉

- ・整数に直して計算する小数の計算の仕組みや通分して計算する異分母分数の計算の仕方が定着するよう必要に応じて繰り返し指導し、計算の技能の習熟や継続が図られるよう指導に努める必要があります。
- ・直方体の体積を計算するために必要な「縦・横・高さ」の長さを見つけ、公式に当てはめて計算できるよう指導に努める必要があります。
- ・割合(百分率)に関する問題については、百分率の意味を理解させ、何が「基準量」かを的確にとらえて計算するために、問題文を読み取る力を高めるなど国語科などと関連付けた日常の指導の充実に努める必要があります。

算数 B（主として「活用」に関する問題）

数量や図形についての知識・技能などを実生活の場面に活用する力やさまざまな課題解決のために構想を立てて実践し評価・改善する力をみる問題です。選択・短答・記述の解答形式で構成されています。「数と計算」ではきまりを基に直方体の3辺の和や基にする音符の整数倍や小数倍の音符。「量と測定」では示された条件を基にした表の読み取り。「図形」では正方形の定義を利用した操作の説明。「数量関係」ではグラフや表の読み取りや割合の利用などの内容になっています。問題数は13問です。

- ・「数と計算」、「量や測定」、「図形」については、全道とほぼ同様です。
- ・「数量関係」では、全道とほぼ同様ですが、示されたグラフの特徴を理解し目的に応じて情報を読み取ることに課題があります。

算数B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	4 情報の読 取	1 棒グラフと折れ線グラフから 自動車輸出台数の割合減の年 度を見つける	52.1%	55.3%

- ・解答が記述式の設定問の正答率は全道とほぼ同様ですが、一桁と低く課題があります。

算数B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	2 小数倍の 数	2 2分音符の長さの1.5倍に なっている付点2分音符の図 を選択し、その理由を書く	6.6%	9.0%
	3 操作の理 解と説明	3 紙を折ってできた四角形の名 称を書き、その理由を書く	8.9%	10.2%
	4 輸出台数の 大小比較	3 グラフをもとに、示された説 明が正しいことのわけを書く	5.8%	6.9%

〈指導の改善にあたって〉

- ・与えられた条件の意味を理解し図やグラフを読み取ること、根拠を明らかにして説明することなどの数学的な考え方を高めていく指導に一層力を入れる必要があります。
- ・算数Aと同様、式をたてて正しく計算したり説明することができるよう、問われていることを問題文から読み取るために、他教科との関連を図り読解力の向上に努める取り組みをさらに充実させていく必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の60.5%に対して石狩市は64.2%で3.7%高くなっています。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の79.8%に対して石狩市は89.1%で9.3%高くなっています。
- ・「算数の授業内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の73.5%に対して石狩市は72.6%で0.9%低くなっています。
- ・「問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」、「授業で学習したことを普段の生活の中で、活用できないか考えますか」の設問では全道とほぼ同等の結果ですが、「授業で学習したことは将来役に立つと思いますか」では全道をやや低くなっています。
- ・解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」といった肯定的な回答は、A問題は全道とほぼ同様で、B問題は全道よりやや高くなっています。なお、A・Bとも無解答率は、全道と同様の結果が出ています。

平成23年度 全国学力学習状況調査問題を活用した
北海道における学力等調査の結果分析

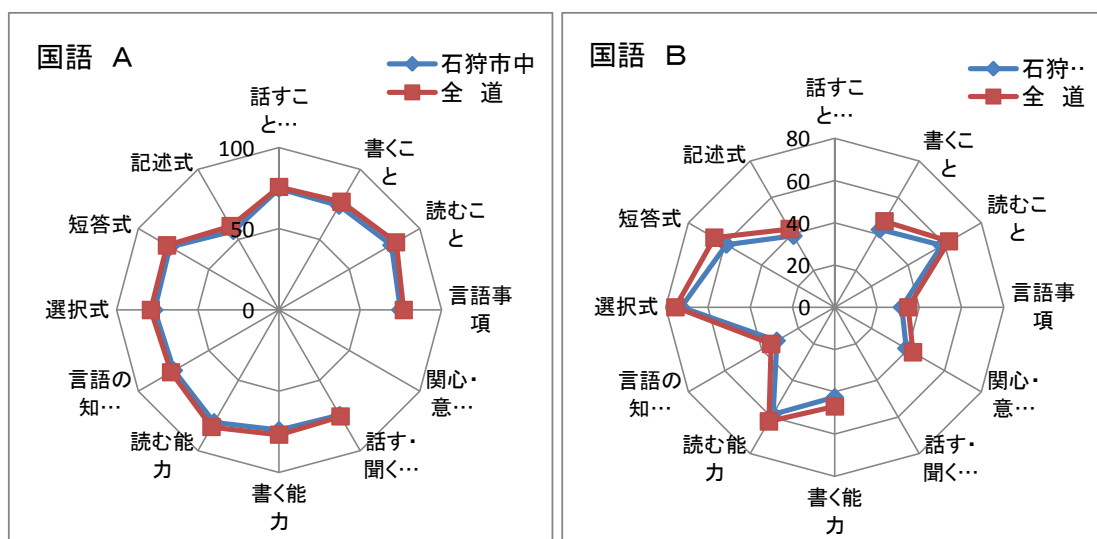
【中学校国語】

□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全 道	25.0/32問	78.0	5.6/9問	62.4

全道平均正答率との差	ほぼ同様(上位)	同 様	ほぼ同様(下位)	やや低い	ほぼ同様(上位)	同 様	ほぼ同様(下位)	やや低い
	+3~+1	+1~-1	-1~-3	-3~-5	+3~+1	+1~-1	-1~-3	-3~-5
石 狩 市			○					○

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着
- 漢字・語句等の定着、日常的な活用に課題

国語 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関するの定着度をみる問題で構成されています。領域別では「話すこと・聞くこと」は説得力のある話し方や聞き取り方、目的に沿った適切な質問の仕方。「書くこと」は読みやすく分かりやすい文章や内容の整理、相手に応じた表現の工夫。「読むこと」は文章や語句の意味や内容を捉える。「言語事項」は漢字の読み書き、適切な使い方等に関する出題内容になっています。問題数は32問です。

- 「話すこと・聞くこと」の領域は全道と同様です。

国語A	設問	石狩市正答率	全道正答率
(例) 2二 話題を選ぶ	自分の話に付け加える内容として適切なものを選択する	76.8%	76.2%

- 「書くこと」「読むこと」の領域では、基本的な漢字の「読み・書き」についてはほぼ全道と同様です。

国語A	設問	石狩市正答率	全道正答率
(例) 9一 漢字を書く	1 「ヨボウ」(予防)	78.4%	81.1%
	2 「ケントウ」(検討)	27.4%	28.3%
9二 漢字を読む	1 「勢い」(イキオ-い)	92.5%	91.8%
	2 「傾向」(ケイコウ)	82.5%	84.9%
	3 「敬う」(ウヤマ-う)	83.7%	84.6%

- 「言語事項」の領域では、日常的に使用頻度が高い語句は意味を理解し適切に使えますが、特に丁寧・謙譲・尊敬等、人との関わりに必要な言葉遣いに課題があります。また、論理や文章の展開に即して内容を理解することにも課題があります。

国語A	設問	石狩市正答率	全道正答率
(例) 9三 適切な 語・語句 の選択	ウ 涼しい顔をしている	88.7%	91.6%
	エ 申しておりました	53.0%	63.7%
	オ 知恵を <u>しぼる</u>	87.5%	91.4%
	カ <u>いと</u> も簡単にやってのけた	86.3%	90.6%
5二 書き直し内容と整合性	段落相互の関係を整える	59.3%	65.4%
9五1 古文と現代語訳の対応	「いかん」の現代語訳を抜き出す	78.0%	82.9%

〈指導の改善にあたって〉

- 学習した漢字を各教科等の学習や日常の活動等で意図的に活用するなど、定着のための機会を意図的に設定する必要があります。
- 漢字・語句等を正確に読み書きさせるだけでなく、用法を正確に理解し文脈に即して活用することができるよう、さらに指導に努める必要があります。
- 目的や意図、場、相手に応じて、適切にわかりやすく文章を書くことの指導に努める必要があります。
- 日常生活の中で、自分の考えを持ち、順序立てて考えたり相手の立場に立ってわかりやすく説明することの指導に努める必要があります。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用(応用)することができるかどうかを診る問題で構成されています。領域別では「読むこと」を中心に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」の各領域・事項が重複し、応用・発展した出題になっています。問題数は9問です。

- ・「書くこと」「読むこと」の領域では、「内容を正確に捉える」「情報を関連付けて読み、考えを適切に書く」「自分の考えを論理的に書く」ことに課題があります。

国語B	設問	石狩市正答率	全道正答率
(例) 1一 内容把握	適切な説明文の選択	88.9%	93.2%
1二 情報読取	情報を関連付け簡潔に書く	53.1%	59.9%
1三 自己考察	自分の考えを論理的に書く	31.7%	34.8%
2三 形式表現	指示された形式での表現	37.2%	42.4%
3二 情報読取	文章を手掛かりに本を特定	65.3%	71.7%

〈指導の改善にあたって〉

- ・自分の伝えたい内容がより効果的に伝わるよう、作成した資料を見直し、聞き手の立場に立って組み替えてみたり、相互評価したりするなど、さらに指導に努める必要があります。
- ・発展的な問題が多い中で、複数の情報を吟味し、必要なものを選び取ることに課題が残ります。基礎的知識の充実とともに、共通点や相違点をまとめるなど情報を整理したり、順序立てた考え方や多面的な見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた指導に努める必要があります。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の60.0%に対して石狩市は61.0%で1.0%高い結果が出ています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の86.1%に対して石狩市は84.9%で1.2%低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の69.3%に対して石狩市は61.5%と7.8%低くなっています。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の68.8%に対して石狩市は67.6%で1.2%低くなっています。
- ・国語の授業中の質問に関して、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」の各設問についての肯定的な回答率は、いずれも全道より低い回答となっています。
- ・無解答率は全道よりもやや高い傾向にあります。学習状況調査での解答時間が「余った」「ちょうどよかった」の回答率は全道と同様です。

平成23年度 全国学力学習状況調査問題を活用した
北海道における学力調査結果分析

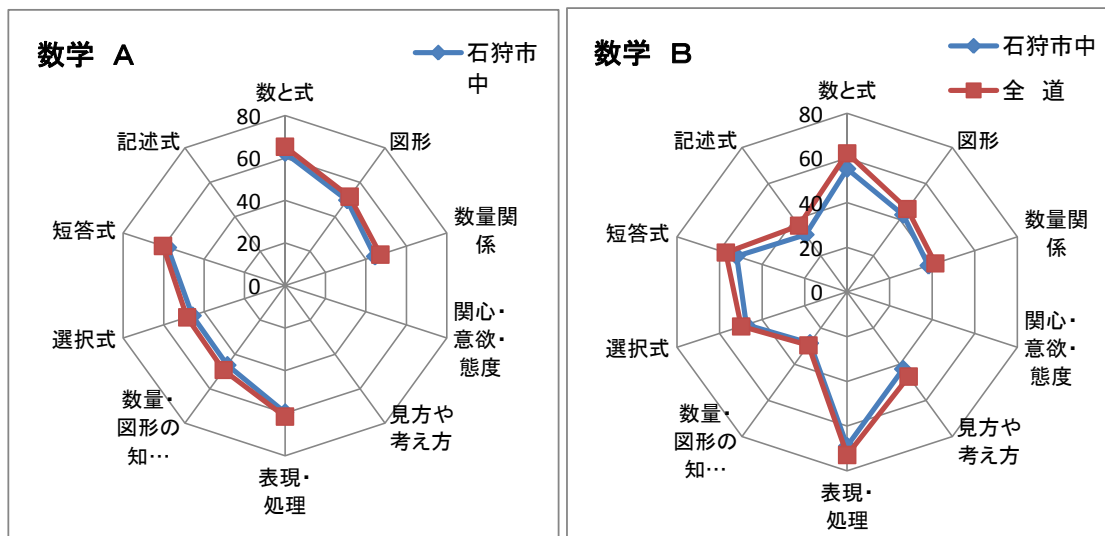
【中学校数学】

□ 正答率の状況 □

	数学A(主として「知識」に関する問題)		数学B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全道	19.7/36問	54.7	7.1/15問	47.4

全道平均正答率との差	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い
	+3~+1	+1~-1	-1~-3	-3~-5	+3~+1	+1~-1	-1~-3	-3~-5
石狩市			○					○

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 数学科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着
- 関数についての数値の変化について習熟が課題
- 基礎的・基本的事項の日常的な反復に課題
- 基礎的知識の連携、論理的な思考に課題

数学 A（主として「知識」に関する問題）

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能の定着度をみる問題です。領域では「数と式」は分数の計算、正の数・負の数、文字式、代入、方程式。「図形」は対称、平面図形と立体図形、円柱の体積、内角の和、条件と証明等。「数量関係」は比例・反比例、一次関数に関する出題となっています。観点として、数学に関する基礎的な表現・処理及び知識・理解を主とした出題となっています。問題数は36問です。

- 「数と式」「図形」の領域の基本的な文字式や方程式の計算や解き方等は全道とほぼ同様です。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	1 (1) 分数の乗法	$5/7 \times 3/4$	80.5%	82.2%
	2 (1) 整数の加法と減法	$(4a - 6) - 2(a - 3)$	78.9%	80.0%
	6 (1) 角の性質	平行線における同位角、錯角の位置関係の把握	82.3%	84.7%

- 「数量関係」の領域では、文字式、等式の変形、関数について数値の変化、 x と y の関係を式で表すなど、全道同様の正答率ですが、基本事項の理解と習熟に課題があります。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	10 (1) 比例	比例 $y = -3x$ のグラフを選ぶ	65.0%	63.1%
	12 反比例	電圧 V が一定の時の抵抗 R と電流 I の関係の正しい記述の選択	24.1%	24.7%

- 具体的事象の関係について、確率を求めたり、資料の傾向を読み取ることに課題があります。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	13 (2) 資料の活用	中央値について、必ず言える記述を選ぶ	22.5%	26.8%

〈指導の改善にあたって〉

- 基礎的事項の習熟には日常的に繰り返すことが大切であり、意識的・計画的に演習するなど、反復して定着に努める必要があります。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	3 (1) 一元一次方程式	$0.1x + 1 = 1.5$	73.4%	72.6%

数学 B（主として「活用」に関する問題）

数量や図形についての知識・技能などを実生活の場面に活用する力や、さまざまな課題解決のために構想を立てて実践し改善する能力を診る問題です。領域では、「数と式」は情報の選択と処理・筋道を立てたり発展的に考え説明したり、「図形」は与えられた証明から仕組みを考えたり、成り立つ事柄の特徴を数学的表現を用いて説明する。「数量関係」も必要な情報の選択処理、数学的説明など、数学的見方や考え方を主にした応用・発展的出題になっています。問題数は15問です。

- ・ 個々の基礎的知識を連携させたり、論理的・発展的に考えたりすることに課題があります。
- ・ 無解答率が高くなっていることに課題があります。

	設 問	石狩市		全 道	
		正答率	無解答率	正答率	無解答率
(例)	5 (2) 資料の活用	22.0%	46.5%	25.2%	41.9%

〈指導の改善にあたって〉

- ・ 基礎的知識の充実、数式等の意味・成り立ち、筋道を立てて考えることなど、課題を整理・確認し再度指導・確認する必要があります。
- ・ 資料を読み取り、数理的に考察することを位置付けた学習に取り組む必要があります。
- ・ 日常生活の中から数学的な考え方が導き出せるように取り組む必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・ 「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の48.3%に対して石狩市は41.2%で3.8%低くなっています。
- ・ 「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の73.9%に対して石狩市は66.8%で7.1%低くなっています。
- ・ 「数学の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の57.5%に対して石狩市は47.5%と10.0%低くなっています。
- ・ 「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の90.7%に対して石狩市は85.0%で5.7%低くなっていますが、多くの生徒が「できるようになりたい」との願望はもっていることがわかります。
- ・ 「問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は、いずれも全道より数%低くなっています。
- ・ 「最後まで解答を書こうと努力しましたか」に対する肯定的な回答は全道よりも低く、無解答率も全体的に高くなっています。しかし、「解答時間は十分でしたか」に対しての肯定的な回答は全道よりも高くなっています。